校長室だより～燦燦～ №２０７

アナザースカイ

2020.10.8

「another sky アナザースカイ」というテレビ番組をご存じだろうか。現在は「アナザースカイⅡ」となっている。日本テレビ系列で毎週金曜日の２３：００～２３：３０に放送されている。私の好きな番組の一つである。私の場合、必ず見るようにしているのは、「ドクターＸ」ぐらいである。他には、最近では「出川哲朗の充電させてもらえませんか？」は見るようになった。「出川哲朗の～」を見ているということは、土曜日の１６時３０分には自宅にいるということである。以前では考えられないことである。それだけ、ステイホーム、新しい生活様式が定着してきたということか。

そんな私が、金曜日の夜、床につく前のホッとした時間に、ちょうどやっている番組が「アナザースカイ」なのである。この番組は、毎回ゲストを１人招き、ゲストの興味深い人生を掘り下げていき、「海外にある第２の故郷」「憧れの地」をテーマにトークが進められていく。最近では、国内が取り上げられている。私の場合は、「あなたのアナザースカイはどこですか」と聞かれたら、迷わず娘の生まれ故郷でもあるイタリア、ローマと答える。

「５８言語Ｂ」これは、私が出た大学の私が専攻したコースのクラス名である。数年前、このクラスのクラス会があった。参加したのは２２名中１１名である。直前になってインフルエンザなどで、残念ながら３名が欠席となった。ほとんどが教員であるが、大学教授になっている者が１名いる。まずは、男性も女性も、あまりにも変わっていないことに驚かされた。私はよく人から「変わっていない」と言われるが、この人たちも変わっていなかった。なぜ変わっていないのか。今回は、「教員をやって、みんな生き生きしているから」と結論づけた。

その生き生きしている教員の中に、宮城県仙台市で活躍中の小学校女性教員がいた。彼女は、昨年も今年も続けて６年生の担任、かつ学年主任、そして生徒指導主事に外国語活動担当と、毎日毎日忙しい日々を送っているそうである。「もう疲れて倒れそう」と言いながらも生き生きしている。

その彼女にもターニングポイントがあったそうである。以前勤めていた学校の校長先生に「大学院に行かないか」と言われたそうである。そのときは、悩んだ末に断ったとのことだった。今でも、「あのときに大学院に行っていればと思う時がある」と話していた。私は、「その時に出した自分の結論がベストだと思う」と話した。

そんな彼女がすごい話をしてくれた。彼女は毎年のようにニューヨークに行くのだそうである。毎年８月の１週間を使って、ニューヨークに行き、ミュージカルを見たり、セントラルパークで３時間ぐらい何もせずにボーッとするのだそうである。英語の免許を持っている彼女のことだから会話には不自由しないのだろう。簡単に言えば、リフレッシュのためなのであるが、彼女はニューヨークを目標に仕事をがんばり、ニューヨークから帰ってからは、また新たな気持ちでがんばってきたのであろう。

この話を聞いていた別の女性が、「それはアナザースカイだね」と言ったのである。「なるほど」と思った。そこで私は考えた。アナザースカイは、本来は海外なのかもしれないが、何もニューヨークとは言わずに国内でもいいのだと思う。「第二の故郷」「憧れの地」「気分転換できる場所」である。

初任校である玉川第一小学校の先輩教師に、「何か悩んだり、落ち込んだときには、必ず那須の山に登る」と言っていた方がいた。今でもそのことを覚えている。山に登ってあれこれと考えるのだそうである。そして気持ちを入れ替えるのだそうだ。この先生にとっては、那須の山が「アナザースカイ」なのではなかろうか。

あるいは、ちょっと温泉に泊まってくる。それがむずかしければ日帰り温泉に、おいしいラーメンでもいい。映画を観る、演劇を観るでもいいだろう。忙しい教員生活の中の「非日常」が大切だと思う。何か楽しいことを設定して、それを目標にがんばるという方法もあると思う。

（次号に続く）